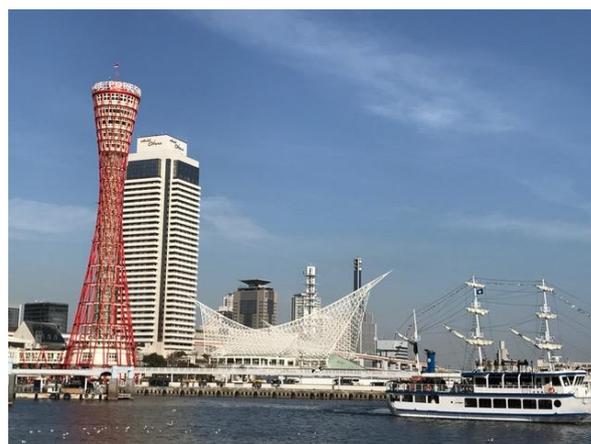


# 書 燈



(右) 神戸港中突堤 神戸ポートタワー付近

(左) 中央図書館  
「貴重資料デジタルアーカイブズで見る

『神戸開港』展

## 読書をもっと身近なものに・・・

棟 安 陽 子

常々、図書館員でありながら、自分ほど本を読んでいる図書館員はいないのではないかと思ひ、自分の怠慢を恥じている。「図書館で働いています」というと大抵「本がたくさん読めていいですね」というフレーズが来るので、なんとなくあいまいな返事をしてしまう。本を読むことは嫌いではないが、最近、1冊の本をゆっくり読むことができなくなった。これほど、本の近くにおり、いつでも本を手にすることができる恵まれた環境にいるにもかかわらずである。かといって、文字を読まない日はない。必要な書類、必要なレポート、メールの文書から、ネットや新聞記事まで。とにかく、ひたすら何かは読んでいるのだが、自分の好きな小説や趣味の本など、「1冊の本を最初から最後まで読んだ、読破した」という達成感を味わう読書をした実感がほとんどない。本を手にして、必要な部分だけを拾い読みするのも一つの読書かもしれないが、それでは達成感がない。

なぜこうなったのか？自分なりに考察すると、仕事や家事に追われ、合間での休憩時間には読書ではない何かをしていてあっという間に時間を食いつぶして終わってしまう。自分にとっては、「読書する」にはそれなりの時間の余裕と「読むぞ」という意志がないと、できない。いかにして時間の余裕を作り出すか…だから初めにそうしない自分の怠慢と書いたのであるが…。

さて、現在の自分の仕事に絡めて考えると、働く世代である20代から50代の図書館利用者が非常に少ない。我を振り返り、みんな同じような状況ではないかと思うのである。本を手にして読む時間が1日のスケジュールとしてなければ、読まないのではないか？あるいは、今すぐほしい時に、そこにその本がなければ読まないのではないか？本は嫌いじゃないけど時間がないから…。この世代にはそんな自分みたいな人が多いのではないかと思う。ではこの世代にあった読書サービスとは何か？ビジネス支援など仕事に絡めたサービスは多いが、子供たちに行っているような、読書支援が欠けているように思う。

例えば、図書館外施設（オフィス街や商業施設の一角）に、移動中や休憩時間にも読みやすい持ち運びの簡単な文庫や週刊誌、必要に応じてビジネスに役立つ本などを備えた“図書館的な空間”づくりを積極的に支援してもいいのではないか。また、この世代にこそ、読書の時間を生活のスタイルの中に組み込んでもらえるようなプランづくりを支援してもいいのではないか？

「図書館の利用の仕方がわからない」「使ってみれば意外と便利だった」と大人から聞くことがある。「もっと身近で便利に…」、よく聞くフレーズだが、子供だけでなく大人にも、「図書館を利用してよかった」と言ってもらえる読書支援や環境づくりをしていきたいと思う。  
(総務課担当係長)

## 学校図書館との連携

### ～学校司書配置と「資料提供」～

問屋 晶子

#### 1. はじめに

神戸市教育委員会事務局社会教育部生涯学習課では、平成26年度より小中学校への学校司書配置を開始し、学校図書館の整備を進めている。私は平成28年4月、中央図書館と生涯学習課に兼務して、学校司書配置等事業に携わることになった。本稿では、学校司書の基本的な役割となる「資料提供」を中心に、学校図書館と市立図書館の連携について記す。

#### 2. 神戸市学校司書配置事業

##### (1) 配置状況

神戸市では平成26年10月、20の小中学校と10の中学校に、1校に1名専任の学校司書を配置し、全小中学校配置を目指して事業を進めている。平成29年3月現在は、全校数の約3分の1にあたる86校(小学校58、中学校28)に配置し、平成29年4月にも拡充する予定である。

##### (2) 学校図書館の機能

今、学校図書館に求められているのは、読書に親しむ「読書センター」機能に加え、情報を探し、資料を読みとり、選択してまとめて伝える方法を学ぶ「学習センター」「情報センター」機能である。そのために、司書教諭は、各学校の教育計画の下、学校図書館の運営をはじめ、教員と学校司書をつないで学校図書館を活用した授業等の計画を行うなど中心的な役割を担う。学校司書は司書教諭と協働しながら、資料の収集・整理・提供、授業等に関連した図書準備など学校図書館の実務を担当し、子供たちと本をつなぐ役割を担っている。

##### (3) 学校司書配置の実績・効果

学校司書を配置した学校では「いつでも人がいる図書館」が実現し、子供たちの来館や貸出冊数が大きく増えた。配置前の半年と配置翌年の同時期を比較すると、来館者数は小学校約4倍、中学校約2.5倍、貸出冊数は小学校約1.1倍、中学校約2倍である。誰も利用しない古い本が置かれたままだった書架が整理され、魅力的な新しい本が揃えられた。NDCによる分類・配架、書架表示、本の紹介・展示がなされ、本が探しやすく居心地のよい図書館になった。学校司書による読み聞かせやブックトークも日常的に行われつつある。

##### (4) 子供たちが本を待っている

学校図書館では、同じ子供に継続して接し、一人一人の読書履歴に沿った対応ができるのが、大きな

特徴である。「おもしろい本を教えてくれる」「調べる時に頼りになる」という信頼関係の中で、踏み込んだ読書案内・レファレンスができる。学校司書の多くは、市立図書館に頻繁に通うなどして、常に本の情報を仕入れている。

##### (5) 学習に役立つ学校図書館

学校司書が授業支援を行うには、教員と打合せをして授業のねらいに合わせて本を集めること、また教科書や学習单元を知ることが肝要であり、学校図書館に教科書を用意している学校もある。

調べ学習では、子供たちが様々なテーマで本を必要とする。例えば、中学校の「仕事調べ」であると、各職業に関連する多様な分野から本を用意する。授業後は、職業ごとに図書リストを作成して次年度に備える。また学校司書は、目次の見方・索引の引き方など情報の探し方の支援も行っている。

生涯学習課では、学校図書館活用の具体的なイメージをすべての教職員が共有し、一層の授業利用等を進めることを目指して「学校図書館活用神戸モデル」(小学校版・中学校版素案)を現在作成中である。

#### 3. 市立図書館と学校図書館の連携

##### (1) 学校司書の研修

生涯学習課では、学校司書が各校で勤務する前に新規採用時研修を行い、その後は校種や勤務年数を考慮した内容で、月に1回程度研修会を行い、技能の向上を図っている。この中には、中央図書館司書が講師を務める研修もある。新規採用時研修では、団体貸出の利用方法について説明し、その後、中央図書館の見学会を児童コーナー中心に行っている。また、選書の参考となるように、子供サービス担当者が、近刊の児童書紹介を行う研修もある。

##### (2) 学校への団体貸出

ここでは、団体貸出のうち「ネットワーク貸出」と「テーマ本集め」について書くことにする。

###### ① ネットワーク貸出「総合学習用図書」

決まったテーマごとに予めセットされている図書を、中央図書館から学校へ貸出をする。平成13年に、小中学校の「総合的な学習の時間」支援のために始まったが、現在は小学校のみの貸出となっている。

平成28年度は、12テーマ、33セットの図書約3,000冊を備えている。各学校からの申込・貸出期間の調整は、神戸市小学校教育研究会図書館部が行っている。図書の運搬は、当初は各学校の教員が行っていたが、平成25年9月より市立図書館の経費で業者が運搬することになった。以降の利用が約1.5



倍に増加した理由の一つといえる。

## ② 「テーマ本集め」

「ネットワーク貸出」が始まり、教員と市立図書館員のつながりができたことで、セット図書だけでなく、各教科の単元のテーマや様々な切り口のテーマでの依頼が、小学校から寄せられるようになった。件数増加に対応するため、平成25年5月、1テーマ50冊までとし、所定の申込様式による「テーマ本集め」のルールを定め、小学校校長宛に通知した。

「テーマ本集め」の申込件数は、平成27年度は全館で449回（平成24年度133回の3.3倍）になり、大幅に増え続けている。並行読書（単元に関連する題材の本や教材と同じ作者の本を読むこと）をはじめ、図書を利用した授業が進んできたこと、FAXで市立各図書館に依頼すると期日までに本を揃えてくれる便利さ、平成26年からの学校司書配置が理由である。学校司書の配置前は、中学校からの「テーマ本集め」の申込みは、年に2～3回であった。それが現在は、小中学校ともに多くの配置校で学校司書が窓口となり、「テーマ本集め」を活発に利用して、授業に必要な図書の準備を行っている。

## 4. 今後の課題

同じテーマでの申込が一時期に重なり、各校の希望冊数を提供できないことが増えてきている。より多くの学校に公平に本を利用してもらうため、提供方法の見直しとともに、「ネットワーク貸出」セット図書の新規追加も懸案事項である。約250の小中学校の学校図書館と市立図書館の連携には、資料費・運搬費・資料の置き場所・人的手配など多くの課題があり、「支援センター」といった全市的な仕組みも見据えていかねばならない。

そして、何より学校図書館1校1校の蔵書が充実することも不可欠である。そこに学校司書の力が大きく関わってくる。生涯学習課では、市立図書館から借りて役に立った本は購入して学校図書館充実につなげることを、毎年使う基本的な図書は学校図書館で揃えることを、学校司書に伝えている。自校の蔵書を把握し、授業支援のたびに顕在化する必要な本を、こつこつと買い揃えることで、学習を支える蔵書が作られる。そのために、学校司書配置の翌年度から3年間、図書費を追加配分し蔵書の充実を図れるようにしている。

学校図書館と市立図書館とがそれぞれの特性に応じた蔵書を構築し、効果的な連携を行っていけるよう、双方の立場を尊重しつつ取り組んでいきたい。

（中央図書館市民サービス係 生涯学習課兼務）

〈新規採用職員エッセイ〉

## 新たなステータスを獲得して

布川 沙紀

新しい環境に飛び込むことは、常に自分自身との戦いであり、成長のきっかけであると思います。採用からこの一年、先輩や上司の方々の仕事ぶりや発言には、自分の知識不足と未熟さを痛感する毎日でした。

配属先の総務課は、簡単に言ってしまえば「緑の下の方持ち」。利用者が気持ち良く図書館を利用出来るよう、陰から支える部署です。ほぼ一日中パソコンに向かい、地域館からの問い合わせには、マニュアルと経験から素早く状況判断をして答えます。そのため、利用者の「ありがとう」という声を直接聞くことは、ほぼありません。

過去を振り返ってみると、自分の仕事について尋ねられたら、「こんなことをしている」と簡単に答えられましたし、本と利用者を相手にする仕事、という実感もありました。ですから、配属された当初は、自分の仕事はどのように利用者へと関わっていくのだろう？と疑問に思いました。

しかし、この場所にいると「図書館サービス」がいかに幅広く、興味深いサービスであることか、改めて気付かされます。来館者の年齢も目的も様々ですし、ライフステージに合わせて要求も変化していきます。そして、それぞれの図書館が持つ特徴を考えてみると、新しいサービスの可能性はすぐそこにあるのではないかと、という前向きな気持ちになります。

「蔵書＝市民の財産」という意識をもち、サービスが平等に行き渡るよう管理する難しさ。市民からの要望を取り入れ、利用者に寄り添った図書館を運営していくこと。長期的な計画を立てて、持続可能なサービスを実現させること。「本が好き」「知識がある」だけでは解決し得ない難題をクリアするため、熱意をもって地道に仕事をこなしてきた先輩方がいるからこそ、現在の神戸市立図書館があります。

憧れであった「司書」という存在が、自身のステータスへと変化したことで、新たな成長のきっかけが見つかりました。先輩方に追いつき、追い越すのにはまだまだ時間がかかるでしょうが、知識と経験を積み重ねても、常に新しいことに挑戦し続ける姿勢は忘れずにいようと思います。

（企画情報係）



## －「すきっぷフェスタ」に出展－

11月13日(日)に、神戸新聞社が県内の子育て支援団体や専門家と連携して運営する神戸新聞子育てクラブ「すきっぷ」の創設1周年記念イベント「すきっぷフェスタ〜みて、きいて、ふれて、親子でワクワク〜」が神戸ハーバーランド「カルメニ」で開催された。中央、三宮、兵庫図書館の3館協力により、神戸市立図書館もブースを出展。『えほんの小箱』『本の虫通帳』等印刷物の配布、大型絵本の読み聞かせ、おりがみの魚を釣る釣り堀、一枚の紙からノートを作る工作などを行った。会場は家族連れで賑わい、図書館ブースを見て「あっ！図書館や」と、足を止めてくださる方も多かった。子供の読書活動推進に力を入れる図書館の姿勢をアピールできたのではないかと考える。(利用サービス課担当係長・梶井)

## －「神戸開港150年」関連企画－

1階、2階展示ケースでは、年間を通し、神戸開港関連の資料展示を行った。1階ロビーでは「貴重資料デジタルアーカイブズで見る「神戸開港」展(12/1～1/9)」を開催し、ブックリストを作成、配布した。7月、2月には神戸港クルーズ関連展示、12月には広報課・神戸アーカイブ写真館に協力したパネル展示も行った。(調査相談係長・大黒)

## －予約図書受取コーナー設置(灘区)－

1月26日(木)より、灘区にある神戸市立王子スポーツセンター内の食堂の一角に設置した。毎週木曜と土曜の13時から16時まで、サービスを利用することができる。今回の設置により平成25年度より進めてきた合計14か所の「予約図書受取コーナー」設置が完了した。(総務課担当係長・棟安)

## －寄贈図書－

今年度、株式会社フェリシモより絵本「おはなしのたからばこ」シリーズを全館合計352冊、みなと銀行文化振興財団より赤ちゃん絵本や利用の多い絵本など児童図書を中央図書館107冊、東灘図書館112冊寄贈いただいた。(資料係長・福永)

## －原口忠次郎元市長関連資料の移管－

1月20日(金)、直筆原稿等を文書館へ移管した。図書類は当館で受領(平成元年7月)直後に大学図書館等の類縁機関等へ寄贈されていた。(調査相談係長・大黒)

## －地域館トピックス－

### 【兵庫図書館に公式キャラクターが誕生！】

11月3日(木)兵庫図書館で「ひみつのお披露目会」が行われ、同館の開館20周年を記念して誕生したキャラクター、本が大好きな女の子「図書子(としょこ)ちゃん」が紹介された。作者は神戸市にも

ゆかりのあるイラストレーター、the rocket gold starこと、山崎秀昭氏。当日は同氏より作品の紹介と自作絵本の読み聞かせが実施され、2コママンガを作成するワークショップも大盛況であった。今後は地域への図書館PRに図書子ちゃんを活用し、より親しみを感じてもらえるよう働きかけていく。

### 【王子動物園・出前ワークショップ開催】

灘図書館は、11月19日(土)に王子動物園から学芸員を招き、出前ワークショップ「動物のお面を作ろう」を行った。参加者はレッサーパンダの生態について学んだあと、お面を作成。最後はそのお面を被って記念写真を撮った。赤ちゃんレッサーパンダの可愛さに歓声が上がりにぎやかなイベントになった。(企画情報係・布川)

## －平成29年度蔵書点検日程－

中央図書館	5月29日(月)～6月8日(木)
東灘図書館	5月17日(水)～5月22日(月)
灘図書館	6月14日(水)～6月19日(月)
三宮図書館	5月24日(水)～5月29日(月)
兵庫図書館	6月21日(水)～6月26日(月)
北図書館	4月12日(水)～4月17日(月)
北神分館	5月10日(水)～5月15日(月)
新長田図書館	4月12日(水)～4月17日(月)
須磨図書館	6月7日(水)～6月12日(月)
垂水図書館	5月24日(水)～5月29日(月)
西図書館	4月19日(水)～4月24日(月)

## －手帳－

会議	12.12	政策会議(三宮図書館関係)
	12.22	政策会議(西図書館関係)
	2.10	KEMS確認審査
	2.21	文教子ども委員会
	2.24	第2回近畿公共図書館協議会
	3.7	予算特別委員会局別審査
	3.15	中央図書館職員安全衛生委員会
	3.17	第2回兵庫県立図書館協議会
	3.22	文教子ども委員会
	3.23	図書館協議会
研修	12.15・2.16	中央図書館館内研修
行事	12.18	ひょうご子ども読書フォーラム
	2.4	ビジネス支援講演会
その他	11.17～11.22	財務定期監査
	11.30	市民満足度調査(全館)
	12.29～1.3	受変電設備他更新工事
	1.17	非常招集訓練、神戸市シェイクアウト訓練
	2.16	消防訓練
	2.24	三田市立図書館の相互利用

(北区住民に拡大) プレス発表